

「気象予報士かんたん合格テキスト<実技編>」 正誤表 第2刷

書籍の内容に誤りのあったことを、本書をお買いあげいただいた読者の皆様および関係者の方々に謹んでお詫びいたします。

(2020年8月14日更新分)

p.17 「表1-2 現在天気記号の説明」の「90」の「9」

誤	強い雷電、雹、氷霧、または雪霰を伴う
正	強い雷電、雹、氷霰、または雪霰を伴う

p.307 「1. はじめに」の下から5行目



誤	このような機構で日本海側の地方では
正	このような気候で日本海側の地方では

(2019年7月25日までの正誤表)



p.17 表1-1 「現在天気記号(100種類)」の70-1

誤	✖✖
正	✖✖

p.20 表1-4 「CM 中層雲」上から2行目

誤	
正	

p.20 表1-4 「CM 中層雲」上から3行目

誤	
正	

p.34 「■前線帯に対応する雲の解析」の上から1行目

誤	200km~500km
正	200km~300km

p.62 下から2行目

誤	上昇流域で水蒸気が凝結して発生した。
正	上昇流域で水蒸気が昇華して発生した (雲が氷晶雲の場合)。

p.71 (6) の上から 3 行目

誤	朝の最低気温も弱いながらも放射冷却の影響で熱帯夜が解消することが内陸部で多くなります。
正	弱いながらも放射冷却の影響で、朝の最低気温も下がり、熱帯夜が解消することが内陸部で多くなります。

p.71 (8) の上から 1 行目

誤	近畿地方上空には
正	日本海には

p.74 「■850hPa の気温と地上気温の関係」の上から 1 行目

誤	気温減率 $0.65^{\circ}\text{C}/100\text{m} \times 1,500\text{m} = 9.3^{\circ}\text{C}$ となり約 9.3°C 、概ね 10°C 程度低く
正	気温減率 $0.65^{\circ}\text{C}/100\text{m} \times 1,500\text{m} = 9.75^{\circ}\text{C}$ となり、概ね 10°C 程度低く

p.94 (2) 上から 1 行目

誤	$+300 \times 10^{-6}\text{s}$
正	$+311 \times 10^{-6}\text{s}$

p.101 下から 4 行目

誤	卓越波高が一致しており、
正	卓越波向が一致しており、

p.102 上から 6 行目

誤	約 2.5m のやや高い波高となっています。
正	2m 近い波となっています。

p.120 図 3-10 赤字の「P 領域」

誤	P 領域
正	Q 領域

p.120 図 3-11 「等温線集中帯」の左上の赤字の「P」

誤	P
正	Q

p.154 下から2行目 選択語句

誤	高潮・落雷・乾燥
正	高潮・雷・乾燥

p.163 上から15行目

誤	今回の事例も初期時刻では500hPaのトラフは四国の南海上にあります。
正	今回の事例では、初期時刻において地上低気圧は四国の南海上にあります。

p.323 「(1) 予想の解説」の「■空欄①」の上から1行目

誤	6日9時(日本時)の予想天気図を
正	5日21時(日本時)の予想天気図を

p.341 問3(2)

誤	(2) 波浪解析図(図7)および波浪予想図(図8)を参照して、
正	(2) 波浪解析図(図7)を参照して、 「および波浪予想図(図8)」を削除

p.341 問3(2)の表 下から3行目 左の列

誤	波高予想 [1m単位]
正	波高 [1m単位] 「予想」を削除

p.346 (2)の表 下から3行目 左の列

誤	波高予想 [1m単位]
正	波高 [1m単位] 「予想」を削除

p.363 (2)の解答例の表 下から3行目 左の列

誤	波高予想 [1m単位]
正	波高 [1m単位] 「予想」を削除

p.406 (1) 上から1行目

誤	・東海沖・名瀬
正	・東海道沖・名瀬

以上